

ひまわりの声

題字：高森政雄区連会顧問

編集・発行 港南区連合町内会長連絡協議会

～見守り・支えあって 安全・安心なまちづくりの推進を～

区民の皆さまには、日ごろから自治会町内会、港南区連合町内会長連絡協議会の活動にご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今年是非常に大きな災害が全国で多発した一年でした。西日本を襲った豪雨や度重なる大型台風の上陸、大阪北部地震、北海道胆振東部地震など私たちの生活に甚大な被害をもたらしました。被害にあわれた皆さまにはお見舞い申し上げます。幸い私たちが住む地域は大きな被害を受けることはありませんでした。しかし、政府・地震調査委員会によると、今後30年以内に、横浜が震度6弱以上の揺れに襲われる確率は82%といわれています。この差し迫った「いざ」という時に、地域のネットワークがしっかりと機能するためには、日ごろの住民相互の関係づくりが重要です。

また、地域では元気な高齢者が増え、様々な形で地域活動に参加いただいています。今後、地域で暮らす誰もが、いつまでも元気で安全に安心して暮らすことがより一層求められてきます。そのためにも一人ひとりができる範囲で、少しずつ身近な地域で関わり合いの持てる仕組みを作っていく必要があります。

私たちは、地区社会福祉協議会をはじめとする地域の福祉団体と連携を深め、行政とも協働による地域づくりを進めていきます。

地域の宝である子ども、高齢者、誰もが安全に安心して暮らせる地域づくりのために、区民の皆さま、これからも一緒に取り組んで参りましょう。

港南区連合町内会長連絡協議会会長 藤田 誠治



地区連合町内会長紹介

～平成30年度、地区連合町内会長の交替があった地区から～

現 日野連合町内会長
田代 孝之

私達は、誰もが「住んでよかったと安心するまち」を目指して、日野連合に加入する約3600世帯が一体となって地域活動に取り組んでいます。

また、日野連合は地域の特性として港南、磯子、栄の三つの区境に接しています。子ども達の通学する学校は9校です。子ども達が安全に登下校出来ることを第一に考え、見守り支援に力を注いでいます。



前 日野連合町内会長
長 信男

8年間皆様には大変お世話になりました。特に区役所、連合会長の方々には一方ならぬご厚意をいただき、誠に有難く感謝いたしております。

近頃、度々自然災害が報道されます。以前の新聞報道では世界で災害リスクの高い都市は東京・横浜が第1位、続いてマニラ、香港、大阪となっております。しかし、どの様な場面にあたっては港南区は連合の絆が強固であり、盤石だと思っております。

最後に、港南区制50周年諸行事のご成功を祈ります。



向こう3軒両隣 自治会・町内会が

見守り・支えあいの基盤です



平成30年8月23日、港南区連会（藤田会長、各地区連合会長）、港南区社協（木村会長、各地区社協会長、福祉ネットワーク責任者）による「区連会・地区社協合同研修会」が開催されました。地域での見守り・支えあいの取組と課題について、工藤前港南区社協事務局長による講義と、グループに分かれての活発な意見交換が行われました。（港南区社会福祉協議会を「港南区社協」と記載しています。）

地域の取組・課題～研修会グループワーク

〈各グループから〉

- ・一人暮らしの高齢者で掃除ができていなかったり、配食サービスを利用していなかったりする人は、民生委員と協力して地域ケアプラザに相談している。
- ・地域ケアプラザの存在をもっと広めていった方がいい。
- ・顔を合わせて、つながりを作って、顔見知りになろう、と色々と事業をやっているが、地域の隅々までは浸透していないのが課題。
- ・ご本人が発信しなくても、周りの人たちが変化に気付ける状況を作れるかが大事。お互いを見守り合う仕組みをつくっていく。
- ・変化に気付いた時に連絡・相談するルートが決まっていると、協力して下さる方も安心できる。



▲藤田区連会会長



▲高森区連会顧問



▲木村港南区社協会長

「地域での見守りの取組について」～研修会講義

〈横浜市の高齢者を取り巻く状況〉

超高齢社会の到来は、活動されている方々は特に実感されているところですが、介護を必要とする高齢者の7割が自宅での生活を希望している状況です。一方で、高齢者が安心して地域で生活していくための、支えあいの担い手が不足しているという声も、よく聞こえてきます。



▲講師の工藤前港南区社協事務局長

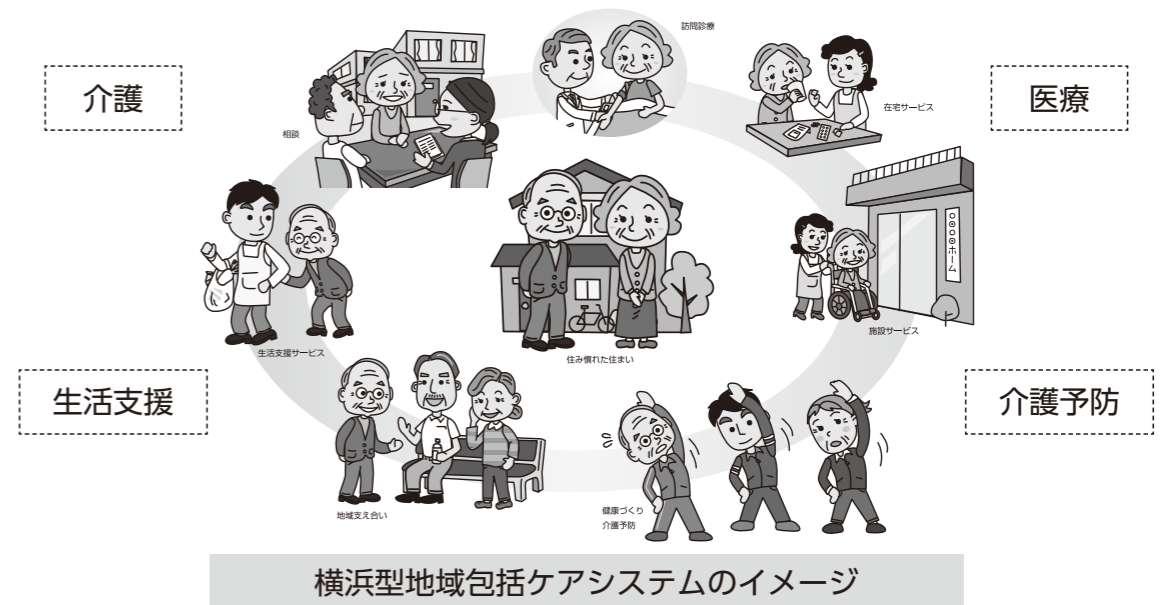
〈港南区の地域活動の状況と意義〉

地域の交流イベント、ふるさと愛、対象を限定しない活動や子育てサロン、高齢者会食会、福祉ネットワークなどを通し、最終的には見守り支えあう地域を目指します。

〈地域の福祉保健の充実について〉

支援を必要としている人や自ら声を上げることが難しい人を地域の活動につなげるときに、ひとつの活動で完結させないで、他の活動と連携すると、地域の課題解決力が上がります。

横浜型地域包括ケアシステムでは、地域ケアプラザを中心に連携を進めていくこととしています。地域ケアプラザをハブにしたネットワークにより、困りごとがあっても地域で生活し続けられることを目指しています。



横浜型地域包括ケアシステムのイメージ

共通している課題認識は、地域との関わりやつながりが希薄な方々の存在です。安心して暮らすことができるまちづくりには、つながりづくり、ネットワークづくりが欠かせません。この課題解決には、地域の側からはたらきかけなど、地域の中で様々な活動をされている方々の力が大きいと思います。

地域で行われている出前教室や講座

交通安全教室



港南警察署職員が地域で交通安全教室（写真上：渡戸自治会にて）や講習会（写真下：日野南ケアプラザにて）を行い、地域の方々と交通事故防止活動をすすめています。



認知症サポーター養成講座

認知症になっても今まで通り住み慣れた地域で安心して暮らせるように、地域で暮らす認知症の人やその家族を見守る応援者「認知症サポーター」を増やす取組が行われています。



地域の認知症キャラバン・メイトの皆さんによる「認知症サポーター養成講座」（写真上：野庭地域ケアプラザにて）で、寸劇などを取り入れ、わかりやすくお伝えしています。

振り込め詐欺抑止防犯講話

港南警察署では、港南区内に居住されている高齢者の方々を対象とした「振り込め詐欺抑止防犯講話」を自治会町内会等で実施しています。犯人は「あの手・この手」の口実を設け、皆さんを騙します。地域の皆さんが被害に遭わないため、実例を挙げ、分かりやすい講話に心がけ、地域一体となった振り込め詐欺撲滅対策に取り組んでいます。

（写真右：上大岡第一町内会における防犯講話）



ひまわりの声では、港南区連合町内会長連絡協議会を「区連会」または「港南区連会」と記載しています。

編集 後記

■本号では、地域活動のなかで、さまざまな団体が連携し、取り組んでいる「見守り・支えあい」の一部をご紹介します。ぜひご一読ください。

■本紙および区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。
■区連会会報担当
向後和善／荻久保頼則

■編集委員
松田英樹／筒井英子
（横浜市港南区港南4-2-10
港南区役所地域振興課内
☎ 847-8391 FAX 842-8193）